



N/S高、VRによる学びを「普通科」に名称変更 ～複数メンター制の導入も～

角川ドワンゴ学園は、インターネットと通信制高校の制度を活用した“ネットの高校”としてのさらなる進化に向け、2022年4月より、以下の取り組みを行います。

■ 学び方の名称を変更

VR 技術を活用した学び方について、従来の「普通科プレミアム」を「普通科」、「普通科スタンダード」を「普通科ベーシック」に名称変更します（認可申請中）。

2021年4月に始まった普通科プレミアムには現在、4,127名の生徒が在籍しています（2021年8月27日時点）。新入生の約4割が、普通科プレミアムを選択しています。また、履修可能な授業6,984本のうち、33%にあたる2,341本がVR空間で履修できるようになっています。今後もVR対応を進めていき、2021年度内には半数以上となる3,980本の授業がVR空間内で履修できるようになる予定です。

VR空間では授業だけでなく、生徒の交流会も頻繁に行われています。普通科プレミアムが始まった2021年4月から7月までの4ヶ月間にVR空間で行われた生徒交流会は142回にのぼり、イベント後に行ったアンケートでは、参加した生徒の約93%が「満足」と回答しています。

オンライン教育ではこれまで、「対面でのコミュニケーション力を身につけるのが難しい」「友達ができる機会をつくりにくい」「体力がつかない」などの課題が指摘されてきました。しかし、角川ドワンゴ学園では、VR技術を活用した面接練習や英会話レッスンのほか、生徒の交流会や、身体を動かしてプレイするゲーム大会などといった友達作りの場を設けるなかで、VR教育がオンライン教育の欠点を克服できる可能性があるかと確信するに至りました。これからのオンライン教育において、VR学習は動画・生放送によるオンライン学習と同じく欠かせない存在になると考え、学び方の名称を変更いたします。

■ 複数メンター制の導入

これまでの担任制度を改め、1人1人の生徒を複数の教育スタッフがメンターとしてサポートする体制に変更いたします。メンターは相談者、助言者として、コーチングやワークショップなどを通じ、生徒の気づきや発見を促します。これまで通学コースにおいては複数の教育スタッフが生徒をサポートする体制をとっていましたが、これをすべてのコースに拡大します。

あわせて、新たにスクーリング専任の教員を設けます。スクーリングとは、生徒が年5日間程度参加する対面形式の授業で、高校卒業資格取得のために必要な必修授業のひとつです。スクーリング専任の教員は、基本的に生徒へのメンター業務は担当しません。業務の分担により教員の負荷を減らすとともに、さらなる教育の質の向上を目指します。

◆ 学校法人角川ドワンゴ学園 N高等学校、S高等学校について ◆

<N高等学校 本校：沖縄県うるま市、校長：奥平博一 / S高等学校 本校：茨城県つくば市、校長：吉村総一郎>

N高等学校、S高等学校はインターネットと通信制高校の制度を活用した“ネットの高校”で、現在の生徒数は両校合わせて20,441名(2021年8月時点)。「IT×グローバル社会を生き抜く“総合力”を身につける多様なスキルと多様な体験」を掲げ、今のネット社会に合った新しい教育を実践しています。授業やレポート提出をネットで行うことで自分のペースで学べる高校卒業資格のための必修授業の他に、大学受験やプログラミング、小説、ゲーム、ファッション、料理、美容など多彩なネットでの課外授業や、全国各地で行う職業体験により、社会で役立つスキルや経験も高校時代に身につけられるカリキュラムが特徴です。ネットコース、通学コース、オンライン通学コース、通学プログラミングコースの4つのコースから選択できます。また、学び方についても、日々の学習をVR学習と映像学習で行う「普通科」と、映像学習のみで行う「普通科ベーシック」を選択できます。

※2022年4月より、従来の「普通科プレミアム」は「普通科」、「普通科スタンダード」は「普通科ベーシック」に名称変更予定です（認可申請中）。

関連スクールには教育機会確保法に基づくN中等部、小中学生向け実践的プログラミングスクールのN Code Laboなどがあります。

<公式サイト> <https://nnn.ed.jp/> <公式 Twitter> https://twitter.com/nhigh_info